



彩の国資源循環工場第Ⅱ期事業



埋め立て処分場も 廃棄物処理施設も

これ以上 いらない!!

現在、埼玉県と寄居町で進めている彩の国資源循環工場第Ⅱ期事業は、年度内に事業者の募集選定などを行ない、環境アセスメントを作成し来年度は住民説明会を開催するなど計画が着々と進んでいます。

この第Ⅱ期事業地は、県の環境整備センターに隣接した土地で、当初は埼玉県の埋め立て処分場を受け入れる代わりに県営の工業団地をつくとされていた土地です。ところが県は「優良企業の誘致が社会不況で困難」を理由に「廃棄物のリサイクルの中核地点機能の拡充を図り、廃棄物最終処分場を確保する」計画へと変えてしまったのです。

平成 17 年、彩の国資源循環工場は操業開始早々にダイオキシン、鉛等の流出がありました。いまだダイオキシン発生の原因は不明のままです。操業した 9 社のうち 2 社は早くも立ち行かない状況となっています。工場の環境リスク面、経営面、将来性などどれをとっても行き詰まりの見える中、第Ⅱ期事業が進められています。平成 19 年 12 月、折原地区環境対

策協議会より町議会へ要望書が提出されました。

彩の国資源循環工場第Ⅱ期事業計画について一般生産・製造工場への計画変更を強く希望するものです。また、地元からも、廃棄物の埋め立て処分場はやめてほしいという声が上がっていましたが、県へのこの事業に対する要望集約の際なぜかこの 1 項目が消されていました。

このように、多くの人たちは、埋め立て処分場や廃棄物処理のリサイクル工場は要らないと思っています。

まちネット寄居は設立時より複合廃棄物処理施設の彩の国資源循環工場の問題に取り組んできました。そしてこの問題に対峙していく団体として「彩の国資源循環工場と環境を考えるひろば」を立ち上げ、その活動をまちネット通信に掲載、またこの事業に対する意見書、要望書など県、寄居町に提出するなど継続して取り組んできました。

今年 4 月に発行したまちネット通信 (No.18) でお知らせしたように、今年度の活動計画として彩の国

資源循環工場問題を地域に知らせていくことを上げています。

身近な町内にありながら、循環工場の問題も埋め立て処分場と廃棄物処理施設が拡大される第二期事業の計画も町全体ではあまり知られていません。

そのため、ネット会員や賛同してくださる方々と一緒に一人でも多くの人に第二期事業の計画を知らせてゆき、共感者を広げて行きます。第二期事業計画のチラシのポスティングを 7 月下旬からはじめます。是非ご協力ください。廃棄物埋め立て、複合の廃棄物の中間処理である彩の国循環工場群は徐々に汚染が出てくる、危険性の高い施設群です。これ以上の埋め立て処分場と産業廃棄物の処理拡大は受け入れられません。いま生きている私たちのみならず、次世代の子供たちが危険にさらされてしまいます。

今、思い切って県と寄居町に「彩の国資源循環工場第Ⅱ期事業」の全面見直しと埋め立て処分場を取りやめるよう声を上げていきましょう。

大北秀子

布ぞうり講習会

6/26



家庭でいらなくなってしまった古い布類、資源回収に出す前にちょっとチェック。素足が喜ぶ布ぞうりは、素材はいろいろ。タオル地、Tシャツ、カーテン、テーブルクロスなど古い布地が生き返ります。

それぞれ思い思いの布地で編み始めました。今回はまず基本の編み方をマスターするところからスタート。あっという間の2時間半でした。松浦さん独自の編み方は、ぞうりの底がすっきりときれい。鼻緒も別付けでいたって簡単。楽しかった～の声。

参加者の声から

●ともかく楽しかったです。解かりやすく教えていただき、まがりなりにも形になることが嬉しい。ただ、足指を使っての作業は長時間はきつい。やはり編み台が必要と思いました。

▲とっても楽しかった。昔祖父がわらじを編んでいるのを見ていたので同じような作り方だといいなと思っていた。楽しく作れてよかった。

■参加する前に自分でテキストを見て編んだり、人に教えてもらったりして何足か編んでいました。今回の講習で一番よかったのは、土台を先に編んで鼻緒を後でつける点がやりやすかった。また、裏処理もきれいに目に編みこんでしまいですっきり。色々な編み方があるので、自分のやりやすい編み方を良い所取りしたらもっと

楽しく編めそうです。

私たちの身の回りにはリサイクルに出す前に一工夫することで生活が楽しく、心豊かになれることがたくさんあります。自分流のエコライフみつけていきましょう。

共催：生活クラブ寄居支部・まちネット寄居・環境ひろば

松浦奈々江さんに教えていただきました。参加者 10 名

この夏は
楽しく
エコライフ



ダンボール

コンポスト講習会

7/10



毎日出る生ゴミが良質な堆肥に！

生活クラブ生協寄居支部の岡本康子さんに教えていただきました。

寄居支部の支部委員研修の一環

として支部委員の方も参加。誰でも簡単に作れる段ボール箱を使っての堆肥作り。寄居町でも生ゴミはたくさん出されています。貴重な資源ゴミでもある生ゴミを少しでも減量できればと思い企画しました。

参加者からの感想

寄居町でも広めていきたいね

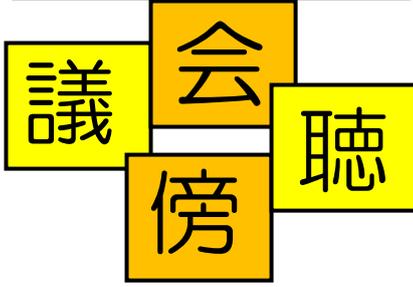
キッチンに置いて臭いが気にならないコンポスト！？興味津々の面々が15人ほど集まり、感嘆の連続！目からウロコの講習会となりました。何しろ、ダンボール箱が処理容器に変身するんです！ 基材はピートモスともみ殻くん炭。3ヶ月程度はそのまま使えるので低コスト。しかも、肉魚(骨も)卵の殻や油までOK、野菜くずの水分も気にせず入れてかき回すだけというのです。ニオイもドロドロもありません。講師の岡本さんは自宅のダンボールコンポストを“ダンコちゃん”とお披露目してくださいましたが、まさに生ゴミを食べてくれる生きものという印象でした。ダンボールコンポストはここ数年で全国的に知られるようになり、自治体によってはゴミ処理の環境負荷や費用軽減の狙いから、市民への普及広報や補助金を手当てしているところもあります。寄居町でも是非とも広めていきたいと思いながら我が家のダンコちゃんの準備に取りかかりました。篠原由実子 温度の高いこの季節がチャンス。是非この夏から始めてみませんか？

寄居町中央公民館

参加者 15 名

共催：生活クラブ寄居支部・まちネット寄居・環境ひろば

詳しいお問合せは
大北 (582-4073) まで



かみ合わない質疑応答

今議会より一般質問が「総括質問形式」から「一問一答方式」に変わりましたが、議員の質問に対し町当局の答弁はいままでと変わりなく、内容によって多少説明があったものの「考えていない」「金がない」が目立ち、一問一答の意味を理解しているのか疑ってしまう。審議を深めどころではない。某議員は「考えていない、県の意向、関わりの返答ばかりではなくもっと前進、展望のある答を望む」の意見。当然と思う。その後、行政より「研究しておきます」の言葉があったが、傍聴者も真剣に聞ける魅力のある議会であって欲しい。

傍聴に行って居眠りはしたくないが、かみ合わない答弁に議員の質問もむなしくなってしまう。次回までに当局の答弁の方法を検討していただきたい。

松浦奈々江



もういらない！ レジ袋

舟木賢徳氏(レジ袋研究者)

6月26日 吹上公民館

共催: 生き活きネットワーク鴻巣/
吹上・生活クラブ熊谷ブロック
ごみ問題の一環としてレジ袋について学習をしました。

レジ袋は使い捨ての象徴

日常生活の中で当たり前として氾濫しているレジ袋だが、問題は思いのほか深刻だ。

- ①レジ袋の無料配布がレジ袋の乱用を促進
- ②無料配布が市民の環境意識を荒廃させる
- ③レジ袋が使用されるのは数十分のみ
- ④風に飛散しやすく景観を破壊
- ⑤植物に絡み土砂に埋もれて捨てるのが厄介
- ⑥生物にとって死に至らしめる危険な代物
- ⑦焼却炉では高温で燃えて炉を傷める
- ⑧埋立地ではプラスチックの添加剤が環境を汚す
- ⑨リサイクルがほとんどない等等

ではこれからレジ袋はどうあるべきか。ヨーロッパでは有料化されている。日本もわずかだが有料化が実施されているようだが、消費者の必要の声、売上げが減る、金額も1円から5円と足並みが揃わない事等、袋の削減を図る上でネックになっている。

流通業者は全店共通ルールの必要性を考えている。

私の地区は今年よりレジ袋のごみは回収されない。

問題点はたくさんあると思うが「今からでも遅くない、自分で

きることから実践しかない」。

皆さんはレジ袋をどう考えますか？ 私は廃止すべきだと思います。

松浦奈々江

地域協議会って？

生活クラブ運動グループ(生活クラブ生協、埼玉ワーカーズコレクティブ連合会、埼玉県市民ネットワーク)は生活者が生き生きと暮らせる地域協同社会作りを目指して、ブロック地域協議会を開催しています。

私たちのエリアは熊谷で、生き活きネットワーク鴻巣/吹上・まちなネット寄居・生活クラブ熊谷ブロック、ワーカーズつくしの構成団体です。

現在地域協議会ニュースを随時発行。まだあまり協議会の存在自体が知られていない状況ですが地域協議会で問題意識を共有し、課題の発見から解決に向け協働しています。今回のレジ袋の講演会は、地域協議会の取組みの一つです。

ネット会員募集中 いつでもどうぞ！

暮らしの中で気になっていること何でも話し合いませんか？

問い合わせ・申し込みは

大北 TEL582-4073 まで

編集後記

夏を、暑さを楽しもうと言う掛声はいいが、高温多湿の日本の夏はやはり身体にこたえる。

それでも稲の発育は順調。そして夏野菜、とりわけ我が家のとうもろこしは有機無農薬だができはよかった。暑い夏の恵でもある。夏の農作業は朝作りがはかどる。「これ以上の埋め立てはいらぬ」Ⅱ期事業のチラシ撒きも早朝勝負。涼しい時に動く究極のエコライフだ。(H.O)